

実践研究

アメリカ・カルフォルニアにおける柔道と文化

—Fresno Judo Club—

三 浦 敏 弘¹⁾

Overseas practical research

Research of Judo and culture in California, U.S.A.

—Fresno Judo Club—

Toshihiro MIURA¹⁾

2003年5月9日米国での生活が関西大学支援のもとにはじまった。本来なら3月出発予定であったが、渡米は大幅に遅れての出発となった。ご存じの通り米国は、イラクとの戦争に入り入国ビザに時間がかかる状態であった。私自身、渡米を断念しなければならないとさえ思われるほど最悪な状態であった。

在外研究員として渡米の目的は、『アメリカおよびヨーロッパ諸国の大学体育・スポーツ実態調査—生涯学習におけるスポーツ環境調査研究—』『諸外国の格技（柔道）についての実態調査』『ドイツの柔道リハビリテーションの変遷および実態調査研究』などを明示し、調査活動に邁進してきました。これらの調査研究活動やアメリカにおいての生活経験が多くの人にフィードバックされ新たな刺激となることを期待しての渡米であることを最初に申し述べたい。

1) 関西大学
〒615-0073 大阪府吹田市山手町3-3-35
Kansai University, Yamate-cho, Suita City.
Osaka 564-0073

1. アメリカ (Fresno) 柔道の変遷

アメリカの柔道の歴史は、1945年、第二次世界大戦終戦の時期から始まる。それまで現地アメリカ在留の日本人は、戦争敵国人として強制収容所(キャンプ)に収容されていた。強制収容所に収容されていたのは日本人だけである。ドイツなどの同盟国の敵国人は、収容されてはいない。終戦を迎え、解放された現地日系人は、強い団結心を持ち日系人が独自でできる文化を広めることを中心に務めるようになる。柔道もその一つである。フレズノ柔道クラブは、1946年に現地のそういった人々によって設立された。現在アメリカ各地、特にカリフォルニア州とハワイには古くから柔道が行われている。そこには、日本人が多く在留していたからでもある。もちろん、日本からの支援も年を重ねるごとに増し、講道館長の嘉納治五郎師範も何度となく、このカリフォルニアに足を運んでいる。もちろんフレズノ柔道クラブにも数回訪れている。フレズノ柔道クラブは、カリフォルニア州の多くの道場の中でも唯一、財団法人である。古い歴史と独自の運営方法で有名になってゆくのである。その陰に1967年Mr.Haruo Imamuraが全米チャンピオンとなった。先生は、現在オールアメリカの強化コーチであり、指導、養成してきた選手は多数である。全米チャンピオンはもとより、全米学生チャンピオンにいたるまで輝かしい歴史を刻まれた人物である。先生の指導の基に日本との柔道交流の歴史が始まるのである。

2. 柔道競技者(子供達)や道場の背負うリスク

フレズノ柔道クラブは、毎週3回の練習を基本としている。柔道をする道場は、昔は公的な学校体育館施設に畳をひいて行っていた。しかし、ご存じの通りアメリカは、訴訟問題が多く保険の問題が多くボランティアといえども道場運営は、厳しい状況下にある。

障害保険は柔道連盟であるUSJF年間250ドルにかけており、個人でも年間50ドルかけている。USJFは100万ドルまで補償している。このライアビリティインシュランスが無い場合、学校側はこれをかけて欲しいとの要



Mr. Haruo Imamura

1933年9月4日生まれ。熊本県出身。53年、県立玉名高を卒業後天理短期大学に入学、55年天理大学に編入。柔道部の第1期生として1年生から4年生まで主将を務め、56年には全日本学生優勝大会の天理大学初優勝に貢献する。58年、卒業と同時にアメリカ・カリフォルニア州フレズノ大学に留学のために渡米し、60年の全米選手権で軽重量級と無差別級の2階級を制覇。以来、アメリカ・フレズノ市を拠点に、アメリカ柔道史に名を馳せる幅広い活躍を見せている。現在、フレズノ州立大学柔道部監督、全米柔道連盟強化コーチ。柔道八段。『近代柔道、柔道一路2004、1-12月連載中』執筆者でもある。



Mr. Larry Tsutsui
フレズノ柔道クラブ指導員



筆者と Mr. Patrick Moody
フレズノ柔道クラブ指導員



女子指導員と子供有望選手
Miss Victoria Cohran
Marlena and Elizabeth(姉妹)

請が上がってくる。大きな事故例えば、柔道練習中に首の骨が折れたなどの場合、学校側、柔道の指導者などが訴訟されるケースがある。これは、柔道場を借りる場合のみならず、ビジネスでも同様で、小規模の店舗でもライアビリティインシュランスがなければ経営出来ないのである。この金額は、アメリカならではの高額である。それを支払うことは練習者や道場運営の負担が多くなることになる事は言うまでもない。

現在、日本は、これら訴訟問題に関してアメリカより数年以上遅れをとっている。しかし、遅まきながら日本も大学に法科研究大学院など設置し法曹界が活発化してきている。その背景には、アメリカでの訴訟問題が大きくクローズアップされ、日本においても何れ来るであろう事を予測しての準備でしかない。

ニューヨークなどは、高い月謝を取って柔道や空手を教えている。もちろん指導者は専門の仕事として柔道や空手を教えており、それなりの給料を貰っているのである。カリフォルニアでは、一部を除き、練習者に高額の月謝を要求することはなく、あくまで月謝は安く指導者は無給のボランティアである。フレズノ柔道クラブも古くからこの伝統を守り、人種を問わず柔道を教え、柔道発展に貢献しているのである。

3. 何故にマイナースポーツ柔道なのか？

フレズノ柔道クラブの練習時間は、子供教室が週3回、1時間30分程度である。続いて大人の教室があり、10名程度で、全米選手権に出場する強者もいる。もちろん指導者が指導するのであるが、今村先生（講道館柔道八段）をはじめ、Mr.Larry Tsutsui（アメリカ柔道五段）Mr.Patric Moody（全米選手権優勝者）、Mr.Richard Imamura（全米学生選手権優勝）、Mr.Rodney Imamura（全米学生選手権優勝）、Mr.Randoll Imamura（全米学生選手権優勝）Miss.Victoria Cochran女子指導員と非常に多く充実している。指導法にも、なによりも礼節を厳しく重視した指導を行っている。またアメリカ流の練習方法も交え子供達を指導している。練習生は初心者

を含め35名と非常に多い。アメリカでは、マイナースポーツとしての位置づけがなされている柔道ではあるが、子供達の練習者が非常に多い。アメリカでのメジャースポーツは、アメリカンフットボール、ベースボール、バスケットなどあげられるが、なぜに子供達がマイナースポーツの柔道なのか疑問が残るところである。



子供柔道教室
Fresno Judo Club

その要因の一つは、子供達の羨である。アメリカ人の親たちは、子供の教育に大変熱心である。各スポーツにも子供達を参加させている。しかし、他のスポーツにない柔道の精神的な面や礼儀を理解しており、羨の厳しいスポーツとして柔道を見ている。その背景

には、アメリカで柔道を行っている日本系のライフスタイルや礼儀などよく観察して理解しているようである。ハイスクールになると他のメジャースポーツであるアメリカンフットボール、野球やバスケットボールなどに転向していくのである。もちろん柔道が気に入りそのまま一生継続する人もいる。



大人柔道教室
Fresno Judo Club

また、人種の混雑するアメリカでは、学校においてイジメが存在する。日本でも学校の人間関係にイジメは存在するが、アメリカではさらに人種問題も含まれているのである。柔道は、格闘技であるが、これらのものに対処し精神的に生きる力の養成に役立っていることをアメリカ人の親たちは十分に理解している。柔道教室に来る少年達は自らで教室に通うことは出来ない。アメリカは自動車社会であり自動車がないと生活できない。何処へ行くのも距離がありすぎて自動車が必要なのである。16歳から自動車免許を習得しハイスクールには、自動車

で通学するのである。したがって、アメリカの親たちは、柔道教室の子供達を少なくとも週3回、自動車で送迎し、子供達の練習や指導を見守るのである。柔道の良さが解れば、口コミで新しい子供達が入門してくるのである。ここでは、柔道生徒募集の宣伝は必要ないのである。

交流のために日本から子供達がフレスノにホームステイし試合や練習をしている。フレスノの子供達も同様に日本にホームステイし試合や練習をしている。今年度(2003年)日本においては、筑波大学が中心となって開催を計画し実施している。日本の茨城地方の小学生選抜の筑波少年柔道大会に各外国人が参加し実施された。フレスノの子供達6名もこれに参加している。もちろん練習にも参加している。今年度は、茨城地方から900名の小中学生が参加している。参加した外国の子供達は、アメリカに限らずロシアやインドからの参加もあった。アメリカ・フレスノの子供達は男女とも日本の子供達に比べ体格は大きく、柔道も良く稽古しているので良い成績を残している。日本からは、昨年フレスノにホームステイしながら45名の日本の子供達が柔道に参加しており、国際交流が柔道を通して盛んに行われている。

4. アメリカ教育制度 (Education system in the U.S.A.)



柔道教室の子供の練習試合
Fresno Judo Club

柔道教室に参加の子供達は、当然義務教育を受けなければならない。アメリカの教育制度は、州ごとに異なり、カリフォルニア州では5歳のキンダーガーデン(幼稚園)、エレメンタリースクール(小学校)から18歳(ハイスクール12年生)まで、または高校卒業までの13年間は義務教育期間として

定められている。また、学力や社会的成長度によりキンダーガーデンから「留年」と「飛び級」が実施されている。外国人の場合、英語力不足で留年を薦められることもある。就学制度は、日本のように国で定められておらず、学校区により異なる。日本と同様の制度である小学校6年間、中学校3年間、高等学校3年間の「6・3・3制度」のほか「5・3・4制度」、「6・6制度」や「8・4制度」が一般的に存在する。また、学年は、1年生から12年生まで通し呼びをしている。学年を決定する基準日(カット・オフ・デート)は生徒の誕生日で決めている。カリフォルニア州の基準日は12月2日となっている。幼児教育については、カリフォルニア州では5歳からキンダーガーデンの入学が義務づけられているが、キンダーガーデン入学への学習と社会的準備のために義務教育以前から子供をプレ・ナーサリー・スクール(基本的には生後6ヶ月から3歳児を対象)やナーサリー・スクール(基本的には3歳から4歳児を対象)に入園させる親が多い。両スクールには、公立校と私立校があり、公立校の授業料は無料であるが低所得者が優先対象となっている。クラスは、週2日制度や5日制度、午前、午後をみの半日制度等さまざまなコースを選ぶ事が出来るのである。

公立校には、学齢期の生徒を無料で教育する義務がある。キンダーガーデンから高等学校までの間、進学のための受験はない。教育レベルが学校区により大きく異なるため、子供を持つ家庭にとっては、学校区状況は、住居を決める上で重



カリフォルニアの柔道大会
Fresno Judo Club

要なポイントの1つになるのである。学校区のレベルは、標準学力テスト(Stanford 9,SATなど)の結果や大学進学率、高等学校中退者の人数、生徒1人あたりの教育予算など、様々な角度からの情報により判断されているようである。私立校については、授業料や寄付金などのプライベート・ファン



カリフォルニアの有段者選手権
(主催: Fresno Judo Club)
筆者と優勝者ロシア出身現在ロスアンゼルス在住
Mr. Givi Shubitpze

ファンドにより運営されているため、公的な制約が最小限度に抑えられている。そのため勉強内容であるカリキュラムやクラブ活動などを含む教育方針は、各学校により定められている。また、公立校と違って、英語を母国語としない生徒にESLクラスなどの英語補助教育を提供する義務はないのである。公立校には様々な種類があるが、大まかにPreparatory School と呼ばれる進学校と、宗教が関連し



カリフォルニアの柔道大会
(主催: Fresno Judo Club)
試合前のデモ: 高段者の形を披露
筆者とMr. Imamura Haruo

ているParochial School の2つに分類できる。その他にも芸術や技術などの特殊な分野に重点を置いた学校、性別により区別された学校などがある。

アメリカの大学は、公立大学、私立大学、公立短期大学、私立短期大学に分けられる。州の公立大学や私立大学は、ハイスクールの成績が良くなければ入学できない。成績はハイ

スクール学校の成績であるが、科目の成績とその他にスポーツ、芸術やボランティアなどのものまで入り、科目の成績だけでは合格しないのである。

日本で言うところの州立大学、有名な大学としてUCLA・ロスアンゼルス大学があげられ、国立一期校5、有名校にバークレイ大学などが上げ

られる。私立大学は、カレッジを含め多数あるが、国立大学よりも有名なスタンフォード大学やエール大学があげられる。

2003年におけるカリフォルニア州の経済状態は悪く、60万人の学生が通うカリフォルニア州の公立大学の学費が今秋から始まる新年度から、大幅に値上げされることになった。加州大(California State University=CSU)システム管財委員会は値上げ案を可決した。加大(Uuiversity of California=UC)も同様に値上げが実施される。学費値上げは30%にものぼるものである。アトキンソン学長は、値上げ案は厳しいが、授業数を縮小、クラス当たりの生徒数を増やす事を避け、削減された予算で運営していくのは必要な手段だと会見している。日本の大学も然りである予算的なものも含め独立法人化による大学の統合や私立大学の生き残りをかけた冬の時代は、アメリカとて変わりはないようである。

義務教育から大学まで簡単にそのシステムを紹介したが、スポーツや芸術との関わりは、ナーサリ・スクールの3歳ぐらいから始まりサッカー、テニール、柔道や空手などを習い始める。しかし、ジュニアハイスクール以上は、科目成績が悪いとスポーツが出来ないシステムがある。成績が悪ければ学校から本人や親に通知があり、課外活動および各スポーツ教室などの習い事は、一切禁止されるのである。

公的な義務教育以外にプライベートなホーム・スクールに通学したり、自宅で勉強したりしている子供達もいる。ホーム・スクールは、プライベートな学校であるが、人数が少なく決められた学校に通学するのではなく、教える資格がある者が存在し、公的機関が認めた場合に許可されている。この場合、授業料、教科書等、教育にかかる費用負担は親がするのである。したがって、経済的に余裕のある家庭である。

この家庭の子供達はコミュニケーションが限られてしまう可能性があるのである。そこで、各スポーツ教室や柔道教室に参加し、コミュニケーションをはかり友達づくりをするのである。

5. アメリカと日本

各学校の成績評価は、A～Fであるが、成績がCランク以上でないと学校スポーツクラブ活動をさせてもらえないし、もちろんスポーツ教室の参加も出来ない。しかし、日本と違いほとんど高等学校までは受験はないのである。各学校の教育機関のサイクルシステムもかなり様々であり、3ヶ月間通学して3ヶ月休みや、進学校においてもかなりの連続しての休暇がある。そこには、良いことばかりではなく歪みも出来てくるのは当然である。アメリカの社会は、悪い子供達も大勢存在するし、ドラッグ（麻薬）など警戒しなければならない状況はたくさん存在するので日々常々から家庭でそのための万全の準備を考えているのである。子供同士で遊ぶときも何処かの親が一緒であるし、家族ぐるみの行動が多い様である。アメリカは、何かにおいても反省の上に立ち直りを見せているようである。悪い物・者などの排除もその一環である。例えば煙草である。アメリカは煙草生産の国であるが、ほとんどの者が禁煙者である。ここ数年前からである。日本での喫煙は減りつつあるものの若者や女性の喫煙者が増えているのである。平然とアメリカ煙草が日本国内で日本製煙草と同価で販売されている事実が存在する。アメリカ国内では、日本の倍の価格で販売されている。健康産業も然りである。ダイエットを考えエリートは平均標準サイズを保ち、煙草を吸わないと決まっているのである。アメリカ社会が色々な面で悪い部分の修正をし始めているのである。人種が混在する国で修正と言ってもそのスピードは遅いものである。しかし、確実に一歩ずつではあるがいろいろな面での修正がなされている。

戦後の日本社会は、アメリカの文化を真似て経済大国となった。良いも悪いも全てがアメリカ文化と言っても過言ではない。アメリカの若者達は携帯電話を持ち、ブランド品を持って歩く者はいない。アメリカ文化を取り入れた日本が墮落しているように思える。

日本は、アメリカ文化の悪い部分を真似ているのではないだろうか。真似をするのも悪くはないが、良い部分のアメリカを真似たいものである。教育者を含め、日本国民全ての積極的な働きかけが必要不可欠な時代に突入

している。米国と日本は違うのは当然である。生活や文化なども違うのは当然である。しかし、柔道は同じである。日本から正しくその精神は、アメリカの子供達に伝えられていることを感じる。一時期、日本の指導者が渡米し正しい柔道を展開反映した結果であろう。その精神は、いまだに受け継がれている。

現在アメリカでは、柔道競技はマイナースポーツであり、ハイスクールや大学スポーツスカラシップ（スポーツ奨学金制度）は存在しない。ハワイ州やバークレイ大学など一部では、認められてはいるがほとんど柔道に対するスポーツスカラシップはない。子供達は、ハイスクール時代から柔道からスカラシップに出るメジャースポーツに変更する率が高い。アメリカの子供達は、柔道をする事自体がリスクを背負っていることになる。柔道場運営に当たってもほとんどの道場がボランティアで運営しているのであるからして、訴訟大国であるアメリカにおいては、道場の運営に関してまでリスクを背負っていることになる。このようなリスクを跳ね飛ばすかのように子供達は、柔道場に練習に来るのである。子供達の柔道は、競技でアスリートを目指すものではなく教育の場としての柔道がそこにはあった。大人柔道教室においても自身の健康管理を考え、柔道が好きな者の集まる生涯学習スポーツそのものである。そこにおける柔道には、世界共通の『JUDO』が存在するのである。

本稿は、(Department of Kinesiology California State University Fresno,U.S.A.における) 関西大学在外研究員（平成15年度）としての研究成果の一部である。

謝辞：本稿は、フレスノ州立大学柔道部監督であり、全米柔道連盟強化コーチ、Mr.Haruo Imamuraの指導を受けてフレスノ柔道クラブにて子供教室、大人教室指導に当たることができ、まとめることができました。心より深く感謝して御礼とさせていただきます。Department of Kinesiology California State University Fresno,U.S.A.学部長、Dr.Catherine G.R.Jacson,Ph.D.先生には、客員教授として招聘くださり、研究指導の他に大学JUDO授業を受け持つ機会を与えて頂き、ここに心より深く感謝して御礼とさせていただきます。